

「聞いたことは忘れる 見たことは覚える やったことはわかる」ということばがある。防災フェスタでは、家族や地域の方とともに体験を交えながら「考える」機会をいただいた。タンスが倒れるデモ、煙に包まれる経験など想像を超える場面に「備えること」の大切さを実感した。自分を守ることは人を救う力につながる。災害に強いまちづくりのため、是非ともこのような場を継続していただきたいと感じた一日だった。

大原小学校教頭 辻本智子

学校でも年間を通して、避難訓練を行っているが、保護者への引き渡し訓練、参加者全員による避難訓練は、初めての取り組みで、様々な課題が浮き彫りになった。また、防災スタンプラリーは世代を超えて考えるまたない機会となった。

災害が発生した場合、地域の協力が不可欠で、地域とともにを行う訓練は、大変有効であると思う。万が一に備えておく必要性を再確認した。

大原小学校教諭 上田浩祥

子どもたちは、家の人と地域の人と、積極的な態度で防災フェスタに臨んでいました。私も、防災を知識として理解するだけでなく、行動として理解していくことで、いざという時に力を発揮するものだと感じました。また、地域全体で防災訓練・体験をしたこと、困難な事態でも地域全体で助け合えるという一つの安心感も得ました。

今後も、とっさの時の人の行動が、人命を救える可能性を大きく左右するという意識を持ち続けていたいと思います。

大原小学校教諭 森田順子



防災フェスタに 参加して



災害が起きた時には、大原自治振興会、区と区民と防災関係機関が協力して災害対策活動を行います。いざという時に円滑な行動ができるよう、総合的で実践的な防災訓練が大原小学校にて実施されました。天候にも恵まれ、600名余の区民が参加され、小学生と父母や祖父母との三世代による訓練は意義深いと感じました。

展示品のロケットストーブや木こりのローソクは我が家でも準備出来そうで早速作りたいと思いました。いざという時スマートに身を守る行動ができるように日頃から備えたいと思いました。

櫻野区区長代理 大原克彦

甲賀町は災害の少ない地域ですが、近年の災害は、思わぬところで発生しております。このことから今回の防災訓練が学区全体で開催された意義は大なるものがあります。今後とも防災意識の高揚を地域全体のものとするために、この取り組みを一過性に終わるのではなく継続した行事として大原地域に即したアイディアを取り入れて計画することが大事かと思います。当日提供されました食事は、意外とおいしかったと好評でした。

神区区長 村山庄衛

今回の防災フェスタでは、多岐にわたる防災体験を通じて、住民の防災意識も高まったことでしょう。今後は、災害発生時に少しでも被害を軽減できる地域や家造りなども話題にして、活動を進めていきたいと思います。

防災士 山出善彦

ハイゼックス炊飯、非常用持出品確認、煙体験、起震台見学等を体験し、防災知識の必要性を深く感じました。地域が一体となつた事業に参加することで、今まで知らなかつた近隣の方とも顔見知りになり、このような訓練を繰り返し行うことにより命が助かる、そして誰かを助けることにも繋がると実感しました。皆様、大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

大久保区 大原幸子

大原地域が一体となる初めての防災フェスタに各区から多数の方が参加された。21のブースでの体験を通じて防災意識の高まりを感じられました。近い将来に起こりうる災害に自治区として統制がどう取れるのか等、課題の認識と、このフェスタが活かしていくことが第一歩かと思います。

大原中区区長 井村正継